

特集 道の駅

「道の駅」の “これまで” と “これから”



▲安全で快適な交通環境の提供や沿道の地域振興が目的の「道の駅」。今や国民的社会的インフラともなっている。



▲「道の駅」の良質な休憩空間は、利用者のリフレッシュや地域振興にもつながる。コンビニエンスストアとは違う機能と魅力を持つ。



▲「道の駅」の集客や売り上げに大きく貢献する産直施設。一方で産直施設に頼りすぎることは大きな課題も…。



▲「道の駅」で販売される地域資源を生かした様々な地場産品。地場の産業が関係する加工品は、経済的・社会的な地域振興につながる。



▲一見効率の良さそうな緑や交通島の無い一面の大きな駐車場は、うるおいや魅力のない空間になるだけでなく、車の走行速度上昇や歩行者の乱横断により安全性が低下し、事故の危険も…。



▲寒地土木研究所の技術指導により、駐車場の一部を屋外休憩空間にして賑わいを演出し集客と売り上げが高まった事例。繁忙期の“賢い仮設の使い方”は、閑散期の維持管理増加の負担リスクを回避する有効な手法。



▲キルギス共和国における「道の駅」建設予定地。自動車交通の増加や道路整備が進む中進国や発展途上国を中心に、日本の「道の駅」モデルによる沿線地域の振興への期待が高い。



▲JICA 北海道センターでの研修で日本の「道の駅」を訪れた中米カリブ地域の研修生。それぞれの国の課題や魅力に適合して「道の駅」モデルが海外に広がるのが期待される。